

## 令和4年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

(定時制課程) No.1

福岡県立大川樟風高等学校

67

自己評価				評価 (総合)	
学校運営計画(4月)					
学校運営方針	大川市内唯一の高等学校として、「志学・創造・貢献」の校訓のもと、地域に根ざし、地域を愛し、地域に愛される魅力あふれる学校づくりを目指すとともに、地域社会や地域産業の第一線で活躍できる有能な人材を育成する。また、「十人十色の未来と笑顔」のコンセプトのもと、樟風生としての誇りと自信を持ち、生涯にわたって自己の実現を目指す生徒を育てる。				
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標			
【成果】 ・一人ひとりの生徒に寄り添い、家庭と連携を図りながら手厚い指導を行うことで、コロナ禍においても、落ち着いた教育活動を継続して実施できている。 【課題】 ・校種間や地域との連携を図り積極的に情報発信を行うとともに、生徒募集につなげる。 ・多様な背景を持ち、課題を抱える生徒の学びを保障するための組織的な生徒理解・相談体制をより推進する。 ・コロナ禍における就業体験等キャリア教育の充実を図り、進路保障につなげる。	1 ICT教育の推進 (授業が変わる。授業が分かる。学力アップへの道。学習支援アプリの利用)	<input type="radio"/> 確かな学力の育成を目指し、わかる授業の工夫改善 <input type="radio"/> ICT機器を活用した授業の工夫改善 <input type="radio"/> ICT機器に対するスキルアップ <input type="radio"/> 達成感のある授業			
	2 キャリア教育の更なる充実 (進路の手引きの有効活用、着実な進路実績)	<input type="radio"/> 段階を追ったキャリア教育の推進 <input type="radio"/> 進路の手引きを活用した積極的な進路指導 <input type="radio"/> 職場訪問や就業体験等を活用した就学、就業の両立 <input type="radio"/> 資格取得に向けての組織的な指導			
	3 魅力ある活動の充実と校種間連携の推進 (部活動と生徒会活動の活性化、資格検定取得)	<input type="radio"/> 学校行事への積極的な参加と生徒会活動の充実 <input type="radio"/> 部活動参加率・資格検定合格率の増加 <input type="radio"/> 部活動の活性化と中学校や地域との交流			
	4 自分磨き (笑顔で挨拶、爽やかな清掃、ボランティア活動)	<input type="radio"/> 人間としての在り方生き方に係わる道徳性の涵養 <input type="radio"/> 安全に対する意識を高揚させ、校舎内外の環境整備 <input type="radio"/> 礼節指導による規範意識の確立 <input type="radio"/> いじめや差別のない人権教育の徹底 <input type="radio"/> 情報交換を徹底し、不登校等への組織的で適切な対処の充実			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
教務	出席率の向上に努め、遅刻者数を減らす。さらに、中途退学者の減少を目指す。	学年・授業担当者と連携して、「授業に出るのは当たり前」という状況をつくる。			
		出身中学校や家庭との連携を密にする。			
新学習指導要領に基づき、学習活動の充実に努め、基礎学力の定着を図るとともに、個々の生徒の特性に応じた学力の向上を目指す。		出席率の達成目標を、全学年平均で90%とする。「中途退学者数を3人未満」「皆勤賞・精勤賞を5名以上」の実現を目指す。			
		各教科担当が基礎学力の充実に重点を置いた指導を行うとともに、総合的な探求の時間等を利用して、主体的に深い学びを実現する。 「生徒の基礎学力定着に向けた指導の改善・充実に係る取り組み」での得点率の向上を図る。			
生徒指導	生徒同士が共に学び、支え合う関係づくりに努め、授業規律を確立する。	漢字検定、簿記検定などの各級の合格者を増やす。			
		生徒会が中心となり、「安心安全な学校、いじめのない学校」づくりに向けた話し合いを行い、生徒への啓発に取り組む。			
卒業生全員の希望進路の実現に努める。	学習環境の点検・整備を行い、生徒の安全確保に努める。	教務部・学年・授業担当者と連携し、清掃や授業に取り組む態度を養い、時間を守り共に学ぶ環境をつくる。			
		「いじめアンケート」や「学校生活アンケート」を毎月実施し、生徒の意識や動向を調査する。			
進路指導	進路関係行事への参加率向上を図る。	全日制・中学校や消防署等関係機関と情報交換及び情報収集に努め、講話、体験的活動や校外補導等、連携・協力して取り組む。			
		職員で分担して、毎日、登校指導及び校内巡回を行い、安心で安全な環境を作る。			
		登校時の校門指導や給食時間等を利用して積極的に挨拶や声掛けを行う。			
		進路講話やHR、相談習慣を活用し、進路実現に向けた意識の高揚と一人ひとりの進路希望の把握に努め、希望進路の実現を目指す。			
		ハローワークとの情報共有を図り生徒の希望に沿った求人票を提示する。			
		卒業予定者の希望進路実現100%を達成する。			
		進路ガイダンスの充実を図り、生徒の希望に沿った校種に講師を依頼する。			
		本校卒業生に進路講話を依頼し、在校生の進路意識の高揚を図る。			
		進路関係の行事について意義や実施日の早期連絡を徹底し、参加率向上を図る。			

学校関係者評価	
評価 (総合)	自己評価は A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

## (定時制課程) No.2

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
保健	食育の充実を図り、給食率向上に努める。 健康で安全な学校生活送るために保健指導の徹底を図る。	食育に関する講演会を計画・実施し、食生活を見直すとともに、食の大切さについて学ばせる。 給食委員会を年3回開き、給食施設の設備点検の安全確認、献立の充実に努める。 食に関する意識の高揚を図るため、給食アンケートを年2回実施して問題の把握に努める。  保健だよりの発行等を通じて保健情報を提供する。 専門の講師を招いて健康教室を計画・実施し、食育、性教育、薬物乱用等の保健指導を行う。 タバコやアルコールの害について、保健指導に努める。				
研修	指導力向上のための職員自己研鑽の充実に努める。 生徒の学習意欲の向上を図る授業の工夫を取り組む。	全・定合同の職員研修会の実施に向けて全日制研修部と内容の検討、日程の調整を図る。 できるだけ早い時期に研修内容、講師を検討する。（全定合同職員研修年6回・人権同和特設年3回・いじめ対策防止委員会） 定時制職員研修会の更なる充実を図る。  職員会議で実施しているいじめ対策防止委員会を職員研修の場と位置づけ、学習意欲の向上に向けた授業の取り組みに有効活用する。 1学期に授業アンケートを実施し、自らの授業を振り返り、授業づくりの参考とする。 研究授業月間を実施するとともに、研究協議の充実を図る。 (年1回の授業アンケート、研究授業、充実した研究協議会)				
図書	活字や映像、音声などすべての面から図書に親しむ。 自分の考えや思いを、言葉で表現できるようにする。	「読書の日」等をきっかけにいろいろな書物を紹介する。 図書室の利用率を50%以上実現する。 図書の貸し出し数について月10冊を目指す。  各分掌や教科、HR担任と連携し、芸術教室での創作活動や生活体験発表会等を通して、作文力、自己表現力をつける。 校内生活体験発表大会に向け、1人800字程度の作文を書く。 希望購入図書のアンケート等を通して生徒の読みたい本を把握する。				
情報化推進	情報機器を活用する環境整備を行う。 「樟風講座パソコン教室」等を通して地域住民の方にPR活動を行う。	新規導入された、定時制用タブレットの積極的な活用を促す。 電子黒板やパソコン室の活用を職員に呼び掛ける。 研修部と連携をとりながら、ICT教育に関する研修会を実施する。  学校開放講座に関して、全職員・生徒と協力する。 ウェブページの作成更新は全日制職員と協力していく。 ウェブページ更新を年間20回以上行い、定時制入学希望に繋がるPR活動を行う。				
人権・同和教育	人権尊重の定着・習慣化と安全で安心できる学習環境づくりに努める いじめの未然防止に努める。	挨拶や声かけを通して講師と生徒のコミュニケーションづくりに努める。 年3回、人権教育教材集「あおぞら」と「かがやき」を活用した人権教育特設授業を実施する。 特設授業では学習プリント等を活用し、生徒が積極的に参加できるよう工夫する。  「いじめアンケート」や「学校生活アンケート」から生徒の実態把握に努める。 気になる生徒の情報を早期に全職員と共有し、いじめや差別のない学校をつくる。 定期に担任や生徒指導主事との会議を設け、情報の共有を図り、いじめの未然防止に努める。				
1年	基本的生活習慣を確立させる。 基礎学力を定着させる。	個人面談でHRを活用して、生徒の家庭状況・生活実態等を把握する。 4年間の高校生活を見据えた目標を持たせ、充実した学校生活が送れるよう指導する。 皆勤賞、精勤賞者を目指す。  授業担当者と連携して、中学校の復習を含めた基礎学力の定着を目指す。 個人面談、HR、情報交換会等で生徒の実態を把握し、中途退学をなくすとともに、全員の進級を目指す。 漢字検定等の資格取得を目指す。				

(定期制課程) No.3